

アイテック ナノ粒子材料を製販 自動車触媒向け製品化

【南大阪】アイテック（堺市堺区、飯田勝康社長、072・226・8853）は、ナノ粒子材料の製造・販売事業に乗り出す。東北大学の阿尻雅文教授と共同開発した超臨界水ナノ粒子合成装置「mom i超」を活用し、自社で各種機能性材料をラインアップする。第1弾として自動車触媒に使われる酸化セリウムを製品化。今後取り扱う材料の種類を順次増やし、2013年度に1億円の売り上げを目指す。将来は装置事業に並ぶ第2の柱に育てる。

09年にmom i超を商品化、化学メーカーや素材メーカー向けにシリーズで累計約50台を販売し

来は装置販売に特化してきたが、材料への引き合いが年々増加していることから事業化を決めた。mom i超は金属塩水溶液と高温・高圧の超臨界水を混合し、加水分解と脱水反応によりナノ粒子を合成する。生成粒子に有機物の修飾剤を投入することで、構造制御や無機物に有機物の特性を持たせる。酸化セリウムでは粒子径10ナノ（ナノは10億分の1）前後で、

触媒活性度が最も高いとされる立方体型粒子の合成を可能にした。

アイテックはmom i超シリーズや関連機器の製造販売のほか、マイクローアクターなどの輸入販売も手がけている。12年3月期売上高は約5億円を見込む。

ている。ただ多くが研究開発向けで、同装置で合成了た材料はほとんど市場に出回っていない。従